

授業科目名	専 門 実 習 I <i>Specialized Nursing Practicum I</i>		担当教員	専門領域の教員	
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	90 (2)
必修選択	選択	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	履修者各自が、それぞれの専門領域において、探究すべき課題の明確化を図るために、実習テーマ・目的を定め、計画を立案し、実施評価までの一連のプロセスを踏む。 尚、助産師養成教育を受けるものは、妊娠期から産後までの継続事例やその家族に対して外来や家庭での保健指導を行い、助産実践力の向上をめざす。				
到達目標	1. これまでの経験や文献等をもとに、各自の専門領域で、探究すべきテーマを明確にできる 2. 1に基づき本実習を、自立して計画・実施・評価できる 3. 文献や理論を活用して、実習成果をレポートとして記述できる				
授業計画	<p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 各自の専門領域あるいは関心領域の地域・集団・個人を対象とし、フィールドにおいて、各自の目的に沿った実習を計画し、実施する（フィールドの開拓、実習計画の交渉などを含む）。 実習で探究したテーマを、理論や文献を活用して、レポートにまとめる。 <p>※レポートは、実習終了後1ヶ月以内に提出する。</p> <p>【実習場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が目的にあったフィールドを選定する （選定にあたっては、各専門領域の教員と相談する） <p>【実習期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内での講義・演習等に支障のない時間で設定する。 実習時間は2単位90時間とする。 <p>※フィールドワークを実施する場合は、学務課へ手続きが必要です。 「Ⅱ履修」の《研究に伴うフィールドワーク》を確認してください。</p>				
学習方法	各自の専門領域あるいは関心領域での実習計画を立案し、各自の目標が達成できるよう、自立して実習を行い、その結果を実習レポートとしてまとめる				
オフィスアワー	各専門領域の教員のメールアドレスを確認し、事前にアポイントを取ってください				
テキスト	指定しない				
参考文献	指定しない				
評価方法	「実習と文献検討をもとに、探究すべき課題」についてのレポート（60%）、目標達成度(40%)				

授業科目名	専 門 実 習 I <i>Specialized Nursing Practicum I</i>		担当教員	永松 美雪、石山 さゆり	
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	90 (2)
必修選択	選択 (助産教育コース 必修)	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	履修者各自が、それぞれの専門領域において、探究すべき課題の明確化を図るために、実習テーマ・目的を定め、計画を立案し、実施評価までの一連のプロセスを踏む。 尚、助産師養成教育を受けるものは、妊娠期から産後までの継続事例やその家族に対して外来や家庭での保健指導を行い、助産実践力の向上をめざす。				
到達目標	1. 妊婦健診を行い、妊婦のアセスメントができる 2. 正常に経過するための妊婦への保健指導が実施できる 3. 産後の家庭訪問を行い、母子の健康診査が実施できる 4. 継続ケアの意義について説明できる				
授業計画	I. 目標：妊娠期および産褥期、育児期の母児に対して、助産診断を行い、継続的な助産ケアを展開する。 II. 方法 1. 実習時期：3月末から7月まで 2. 対象者：妊娠中期以降の合併症のない妊婦1名（5月末～6月初旬分娩予定で、里帰り分娩予定者は除く） 3. 実習施設：あさの葉レディースクリニック 筑紫クリニック 4. 実習の進め方 1) 妊娠中期から妊娠健康診査を行い、助産診断・助産計画を立案する。 2) 助産計画に従って、実施、評価する。 3) 外来または、家庭を訪問して、個別指導を展開する。 4) 個別指導を行う前に、必ず指導案を立案し、教員および臨床指導者の指導を受け、実施の許可を得る。 5) 家庭訪問においては母児の健康診査を行い、必要な指導・ケアを行う。産後の家族計画指導も行うものとする。 III. 実習上の留意点 助産ケアの展開においては、エビデンスに基づく実践を心がける。 助産診断をもとに予防的ケアを行い、助産ケアの一貫性、継続性を図る意義などについて考察する。				
学習方法	本実習では妊娠中期以降の妊婦を1例、産後1か月まで受け持ち、妊娠期から出産後までの長期にわたり母児の健康状態を把握する。母子が健やかに経過するために必要な知識、技術を実践する能力を養う。妊娠後期の妊婦健診は週1回となる。身体だけではなく、心理社会的背景もアセスメントし、必要な保健指導ができるように研鑽する。大学院講義受講、課題研究と並行して行う実習となるため、計画性を持って実施することがのぞまれる。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp、石山：s-ishiyama@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	指定しない				
参考文献	助産学関連の図書、文献など				
評価方法	実習評価表（100%）				